

(平成29年度予算ふるさとテレワーク推進事業)  
2020年に向けたテレワークで紡ぐデータキャピタル活用流動創生事業



## 高梁川流域テレワーク推進コンソーシアム

- ・倉敷市
- ・倉敷芸術科学大学
- ・一般社団法人日本テレワーク協会
- ・一般社団法人高梁川プレザンターレ（幹事団体）

# 1、地域と建物の紹介

## 1-1、倉敷市（岡山県）

### 高梁川流域連携中枢都市圏

- ・ 7市3町の連携
- ・ 旧・備中国



### 倉敷市

- ・ 人口 48万人（中核市）
- ・ 高梁川流域 連携中枢都市圏
- ・ 美観地区、大原美術館に代表される  
歴史・文化都市
- ・ 西日本最大の工業都市  
（瀬戸内コンビナート）
- ・ 医療・福祉都市（2つの地域医療支援病院）
- ・ 平成30年7月西日本豪雨災害（真備町）

# 1、地域と建物の紹介

## 1 - 1、倉敷市（岡山県）



### 倉敷市

- ・人口 48万人（中核市）
- ・高梁川流域 連携中枢都市圏
- ・美観地区、大原美術館に代表される  
歴史・文化都市
- ・西日本最大の工業都市  
（瀬戸内コンビナート）
- ・医療・福祉都市（2つの地域医療支援病院）
- ・平成30年7月西日本豪雨災害（真備町）

### 高梁川流域連携中枢都市圏

- ・7市3町の連携
- ・旧・備中国

# 1、建物と地域の紹介

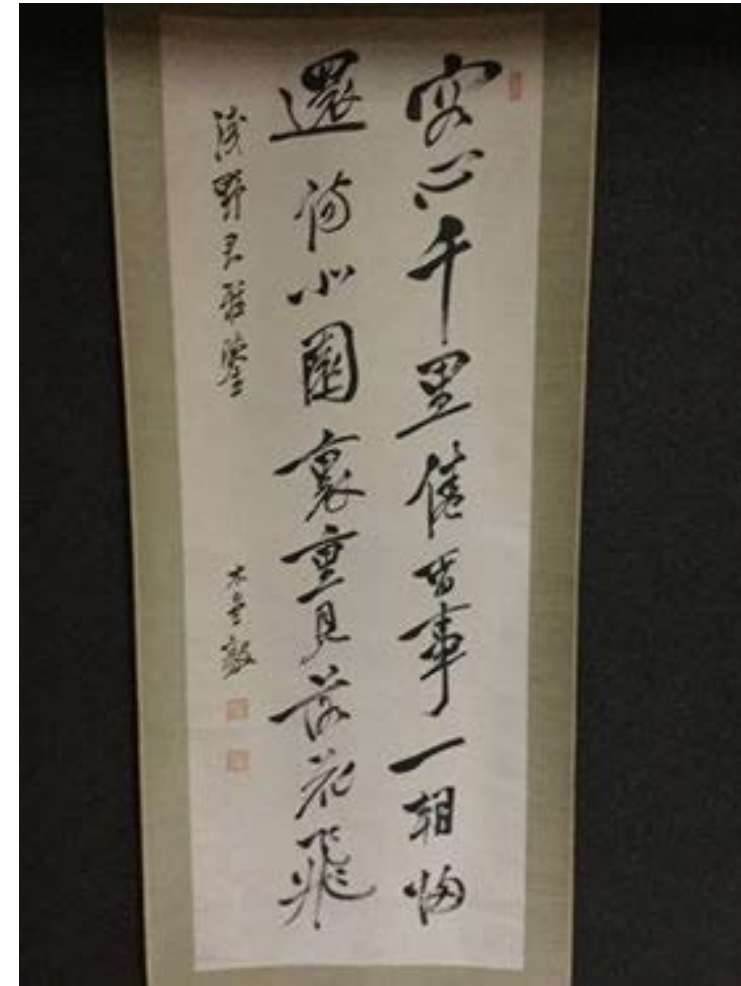
## 1 - 2、美観地区に隣接して立地。



# 1、地域と建物の紹介

## 1 - 3、大正15年建築を平成の先に活かす。

- 犬飼毅（木堂）に縁のある、浅野家住宅の利活用。
- 数年来、空き家となっていたものを、NPO法人倉敷町家トラストの町家利活用の取組みの一環として、紹介を受ける。
- 古民家を活用した「倉敷らしい」テレワーク事業の拠点を整備。
- 懐かしいものと、新しいものとの、組合せを実現。
  - グーグルホーム「OK! Google! 電気をつけて!」
  - ホームセキュリティ・・・パスワードによる入退管理
  - スマートカメラによるテレビ会議システム
- 「懐かしい未来」への構想。
- 「日本的テレワーク」とは？ という問い。



# 概要

---

- 大正15年建築の古民家を利用。
  - 倉敷美観地区から徒歩3分。駅から徒歩15分。
  - スマートロック、テレビ会議などを導入。
  - 伝統と革新の融合を狙う。
  - ワーカー養成とともに、プロジェクト創生を支援・推進。
  - →拠点整備に先行して、ワーカー養成・プロジェクト支援を実施。
  - 航空宇宙産業コンソーシアムなどが活用。
- 
- ハード整備／総務省 平成29年度「ふるさとテレワーク推進事業」
  - ソフト事業／倉敷市 「テレワークで紡ぐデータキャピタル事業」  
「高梁川流域インテリジェントICT実装事業」ほか

# 1、建物と地域の紹介

## 1-4、古民家の設えをオフィスに転用する。ブリコラージュ。

- ・飛び石を渡って歩く。大きな音を立てる玄関。敷居を踏まない。 など。
- ・胡坐をかける。寝そべってもよい。 ・畳、土壁、障子と襖、木材に囲まれた環境。

👉 一瞬でも、余分な思考を忘れる工夫。

👉 身体性に着目した、施設の設計。

一人でいても、仲間と議論していても、「分福」が私の身体を包み、最大化してくれる。「緊張と緩和」のバランス。

ユーザーの声  
(岡山経済新聞 松原氏)



ブリコラージュ。(『野生の思考』クロード・レヴィ=ストロース)  
「寄せ集めて自分で作る」「ものを自分で修繕する」こと。

古民家オフィスにおける  
イノベティブな価値について  
学究的な検証を。

# 拠点利用者の状況

平成29年度 登録ワーカー受注状況アンケートより


- 回答者12名、受注件数237件、合計金額647万円
- 平均受注額30万円、最低額 3万円～最高額 200万円 / 人
  
- オープン以来の総利用者数：のべ1,078名  
(2018年3月～2019年9月まで / 7 か月間)
  
- 154名/月平均 (月20日程度の稼働)
  - 4～5名が日常的に活用。
  - 10名～30名程度の会議、セミナー等が、月数回程度、開催。



# 1、建物の紹介

## 1-5、土地の夢を起こす（巻き込みの駆動力）。

- 地域の歴史や文化、風土に立脚して（あるいは寄り添って）、取り組みを始めた。
- 倉敷の場合は、美観地区に代表される、歴史・文化・風土。あるいは、工業都市としての側面。
- テレワークは「新しい働き方」と言われるが、地域の課題解決（雇用、通勤、高齢者、少子化、（、））を、その土地、その土地ならではの状況にマッチしたやり方（=環境）が相応しい。
- そのことが、周囲の理解や、巻き込みにつながる。
- 首都圏の企業も、その土地「ならでは」を求めている。

 その土地の強み（歴史的な背景）とは？

## 2、使われ方の実際

### 2-1、首都圏企業のサテライトオフィス／価値を凝縮する。

- ジャイアントペーパーフラワーの製造
  - 古民家の雰囲気を活かした開発拠点。
  - 美観地区で、すぐに応用可能。
  - 東京本社スタッフが、交代しながら勤務。
    - メンタルヘルスケアにも。
  - 内職による仕事も生まれつつある。
- 首都圏で生まれた価値と、「その土地ならではの」の価値を、それぞれが凝縮して、交換する。
  - 地元の紙問屋さんとの連携。
  - 地元アーティストへの刺激にも。



## 2、使われ方の実際

### 2-2、地元ワーカーのコワーキング／多様性・包摂性

- 既存の枠組みでは登場しない人材の発掘。
  - 特別なスキルを持った人材。
    - すでにテレワークを（当たり前）に実践している層。
    - 拠点を探している（求めている）。
  - これから仕事を始めたい人材。
- プロジェクトの地産地消。
  - 例）チラシの作成
    - プロデューサー、ディレクター、デザイナー
    - コピーライター、イラストレーター
- 地域外に流出している「お金」「仕事」を見直す。



## 2、使われ方の実際

### 2-3、災害対応 / 緊急時の常態化「備えよ、常に」

- 全国から複数の支援団体、NPO、復興関連企業などが利用（情報交換の場ともなる）。
- 被災地に近い場所に、活動拠点が必要だが、公共施設は避難所や自衛隊等の拠点として優先的に使用されている状況。
- 被災地の経営者なども、事業継続の一環として、コワーキングを活用。
- 一時的に利用キャンセルなどあったが、特別のニーズが発生した（発災2週間～3、4か月程度）。

☞ もともと、コワーキングスペースは、「臨機応変」と相性が良い空間と言える。災害時に、フレキシブルに対応可能な拠点となりえる。



豪雨被害で水に浸かった住宅地＝8日、倉敷市真備町（小型無人機から、共同通信）

引用：山陽新聞ウェブサイトより

不確実性の高い時代には、（中略）  
「共創」するスキルが求められます。

佐々木博氏

## 3、仕組みと仕掛け

### 3-1、プロジェクトベースド、あるいは下請けからの脱却。

- 「その土地ならではの」のプロジェクト立ち上げを支援・推進。
- 例) 航空宇宙産業クラスターなど。  
(その他のプロジェクトについては、配布資料をご参照ください)
- 半歩先の業種、業態への視点  
(高付加価値な仕事の創出、売上向上、販路開拓)



引用：MASCウェブサイトより

「在宅ワークが、重層的な下請け構造になっており、『在宅ワーカー』の報酬額が安く設定されることもあると考えられる」

第1回 柔軟な働き方に関する検討会（平成29年10月3日）『自営型（非雇用型）テレワークの現状と課題』（厚生労働省 雇用環境・均等局提出資料）より抜粋

### 3、仕組みと仕掛け

## 事例) ドローン・オペレーターの仕事づくり。

- グループの形成
- 撮影実績づくり（呼び水的に）
- プロジェクトテーマの検討
  - 離島物流プロジェクト
  - コンビナートインフラの点検
  - 被災地の復興状況の定点撮影
  - ドローンスクール
- 大手企業等との連携模索
  - 通信キャリアとの連携
  - AIの活用
- 地元企業、金融機関等との連携
  - 投資、融資
- 組織的な広がりづくり
  - 商工会議所内に「航空宇宙産業推進協議会」の設立（日本初）。

等





引用：K S B瀬戸内海放送 YouTube動画より

## 3、仕組みと仕掛け

### 3-2、地図と原型。小さく生んで大きく育てる。

---

- 「その土地ならではの」の仕事づくりと人材育成。  
半歩先の仕事をみつけ、  
チャレンジできる環境を整える。  仕事の「原型」をつくる。
- データサイエンティスト（一般社団法人データクレイドルとの連携）。
- インバウンドプログラムの開発ディレクター（一般社団法人高梁川流域学校との連携）。
- ドローンのオペレーター（水島航空宇宙クラスターとの連携）。など。
- 市場規模が拡大しそうな業種/業態を探る。  市場の「地図」を描く。

※ 予算立案も、プロジェクトベースでの収支を基本に考える。

※ 拠点の一時利用のユーザーの料金設定は、負担感が少ない価格帯とする（ただし、ゼロ円にはしない）。

# 3、仕組みと仕掛け

## 3-2、流域経済圏へのアプローチ。

- 衣食住、学・遊などが、一定水準、一定規模以上で、事業サイクルが循環し、調達可能なエリアまで、視野を広げて、取り組みを展開する。
- 一つの市町のみのも事業者で、多様なプロジェクトを展開・推進するには、限界がある。
- 特に、過疎化が進むエリアでは、どうしても人口増加地域との連携が不可欠。

👉 流域というまとまりは、生命の源 = 水資源を共有するという意味でも、共感を得やすい。





## 4、ビジョンと潜在的な可能性

### 4 - 1、生産性を高める日本らしいオフィスの仕組み。

- 古民家の設えが、イノベーションと確度と質を高める。
- 多様な人材（風の人、土の人）との共創による価値の創出。
- 地域が（暗黙的に行ってきた）異文化を取り入れる知恵。
- 懐かしいものと、新しいものの組み合わせに、まだまだ可能性がある。



## 4、ビジョンと潜在的な可能性

### 4-2、多様な経済圏へのゲートウェイ

- 多種多様な経済圏（＝市場・人的ネットワークを含む）に、アクセス可能なゲートウェイ（門）を開く。
- サテライトオフィス＆コワーキングスペースは、そのための物理的な拠点となり得る。

- ☞ 首都圏とのネットワーク
- ☞ グローバル経済圏への接続
- ☞ 地域内の求心力ある拠点



豪雨災害の被災地（真備町）へのゲートウェイ  
→（株）テオリ／竹の集成材を使った家具

## 4、ビジョンと潜在的な可能性

### 4 - 3、不確実性の高まる時代の即興と共創。

- 人口の減少
- 災害の多発
- テクノロジーの進展 など、  
社会の変化の加速度が高まっている。

これまでの100年とは違う  
社会・経済システムが求められている。

- ☞ サテライトオフィス〜首都圏企業・大手企業との連携
- ☞ コワーキングスペース〜しなやかな働き方（生き方）の個人

⇒ 初期コスト（限界費用）が低減された状況で、多様なチャレンジが可能となっている。



# 市長メッセージ (リーフレットコメントより)

## “はたらきかた”に信頼とつながりを

人は常にさまざまな空間——環境要因の中で仕事をしています。

本来、働く人は「自分の働き方にとっては、こういう空間が望ましい」と考えたり、反対に「今いる空間の中では、自分はこんな働き方をしたい」と考えたりするものではないでしょうか。ハード（空間）とソフト（働き方）は互いに影響し合っているのです。

空間を変えれば、ワークスタイルも変わります。地域の歴史と木のぬくもりに包まれた建物、そしてICT技術に支えられたテレワーク環境、それらを兼ね備える「分福」の空間で、人々のワークスタイルがどのように進化できるのか、倉敷市として応援していきます。



伊東 香織（倉敷市長）

# 「懐かしい未来」に向けた働き方改革のビジョン~~倉敷市「住吉町の家 分福」のチャレンジ~~

幅広い人物群を受け入れる包摂性

- ・既存の枠組みでは登場しない人材
- ・これから仕事を始めたい人たち

コミュニティをつなぐ  
お作法への理解

実体経済との連携  
(モノづくり、コンビナート企業なども含めて)

多様な  
コミュニティの創生

半歩先の  
業種・業態への視点

地域の  
人材育成

雇用創出 (自己雇用を含む)  
地域経済への貢献

売上向上、販路開拓

「その土地ならではの」の  
プロジェクトの組成

多様な経済圏  
へのアクセス

連携  
中枢都市圏

首都圏・大手企業

グローバル経済圏

首都圏企業の受入  
大手企業との連携

関係者の巻き込み

地域の伝統や風土に即した取り組み

地域の課題解決の担い手

土地の夢を起こす

生産性向上への仕掛け

- ・古民家の設えが生む効果 (緊張と緩和)
- ・テクノロジーと親和性の高い環境
- ・文化的で、健康的な環境

物理的な環境整備

時代の変化と背景

- ・人口減少社会の到来
- ・テクノロジーの進化
- ・人生100年時代へ
- ・多様な働き方への気づき
- ・マネジメント手法の変化

# まとめ ・ ・ ・ 分福たぬきの見る夢



- ・ 首都圏、あるいはグローバル経済とゆるやかにつながった地域発の、懐かしくて、新しい働き方。
- ・ 地域の担い手となる、課題解決型人材の働き方。
- ・ 経済的でありながら、文化的で、健康な、人間らしい働き方。
- ・ 歴史、文化、風土に根差し、ICT技術に支えられた働き方。
- ・ 倉敷、そして高梁川流域圏という、ヒューマンサイズに合った、ジャスト・サイズな働き方。